

経営比較分析表（平成30年度決算）

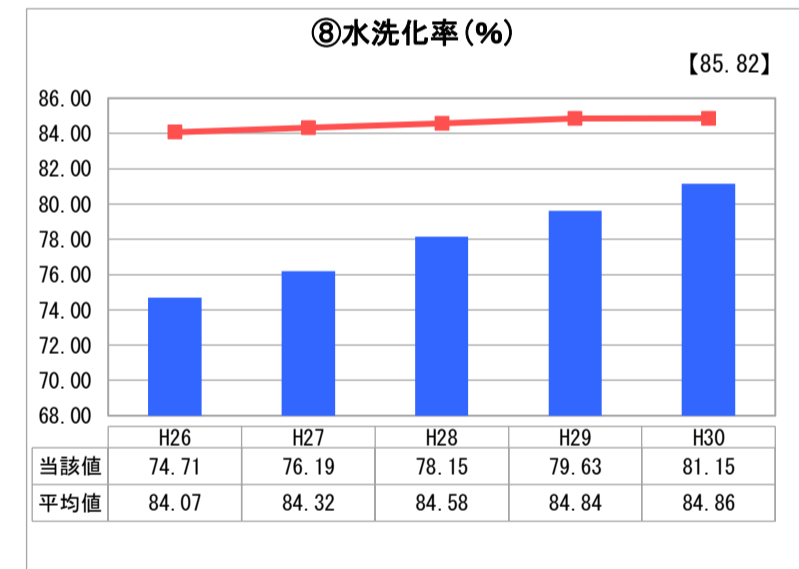
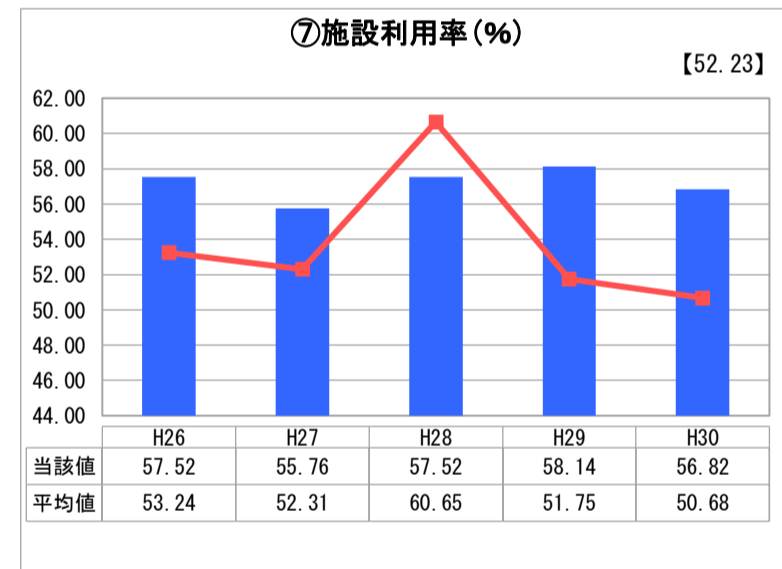
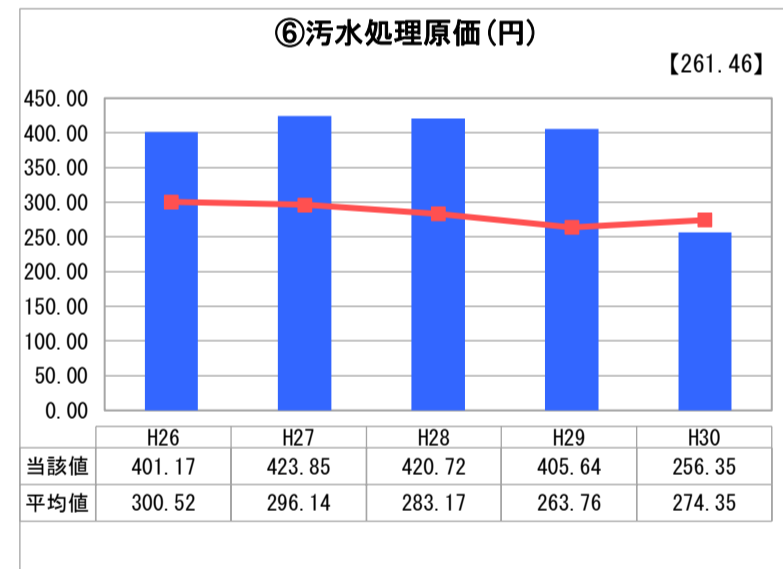
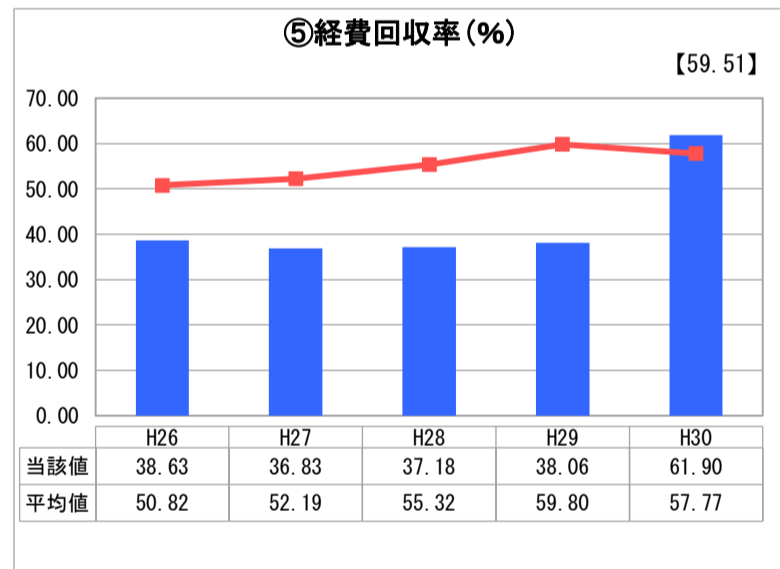
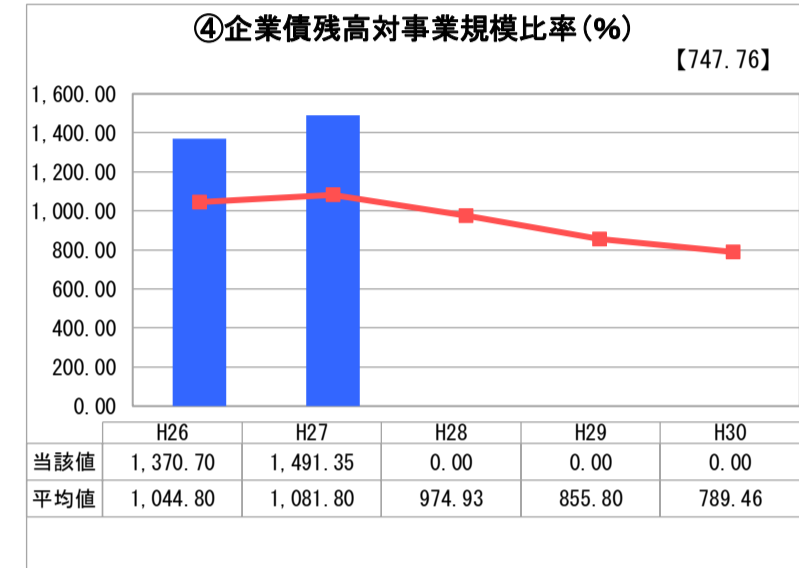
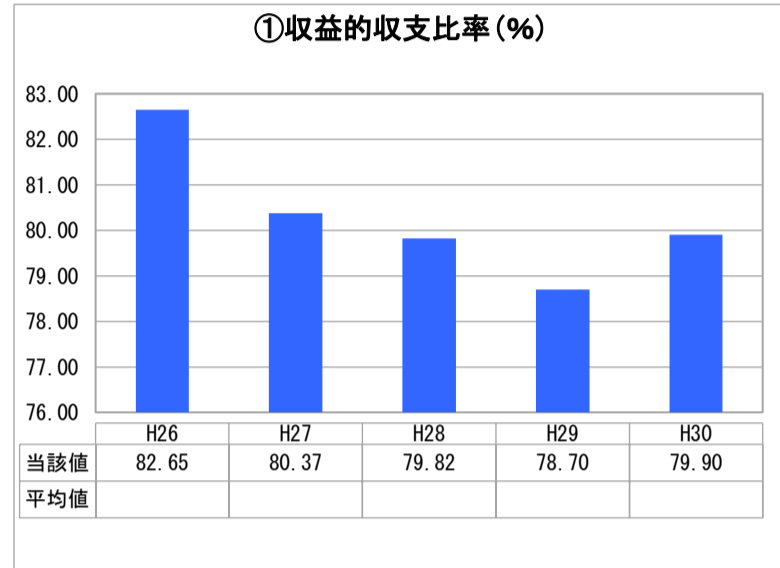
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	11.97	93.59	2,732

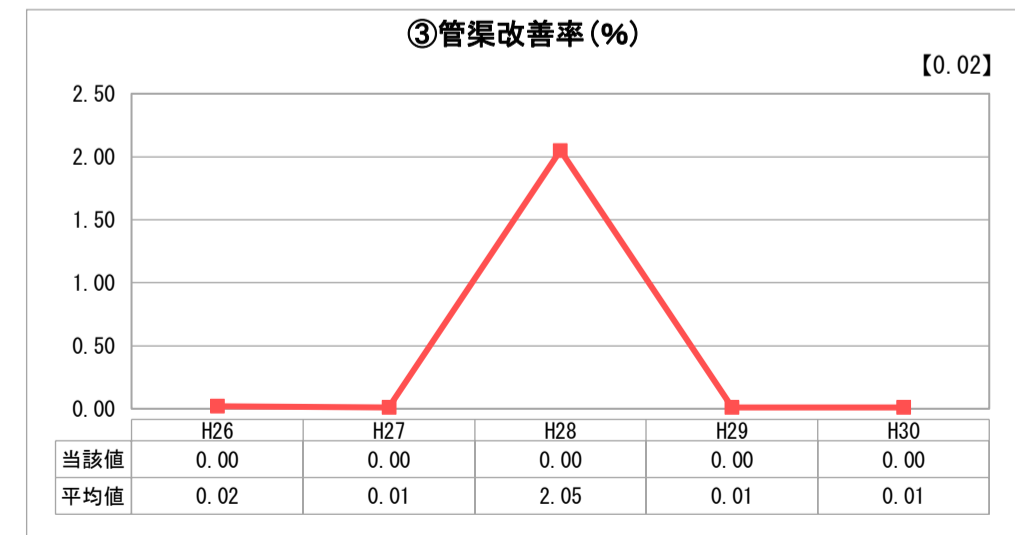
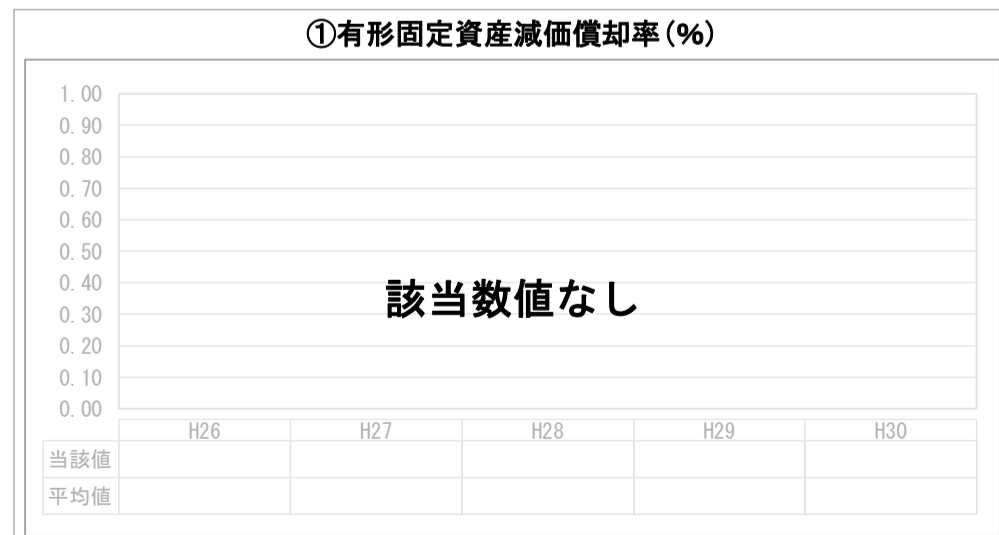
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
23,365	253.88	92.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,775	1.64	1,692.07

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①「収益的収支比率」について、平成30年度が前年度に比べ上昇しているのは、大口使用者の使用料算定の見直し（算定基準を実際の使用水量へ変更）を平成29年度途中に行った結果、使用料収入が増加したことによる。

しかし、「収益的収支比率」について、費用のうち地方債償還元金が今後ピークを迎え、維持管理費も増えていく見通しである。また当該区域は人口が減少していくことが予想されるため使用料収入が減少することから、今後この比率は減少していくものと見込んでいる。

④「企業債残高対事業規模比率」は、料金収入に対する地方債残高の割合であるが、当市は、企業債残高は一般会計繰入金からの負担としており、0%となっている。

⑤「経費回収率」は、使用料の増加等に伴い上昇し、類似団体平均・全国平均を上回った。今後も適切な使用料体系の設定に努めていく。

⑥「汚水処理原価」は、有収水量（料金の対象となる水量）1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、平成30年度は類似団体平均・全国平均を下回った。しかし、施設規模が小さく、維持管理費のコストは高くなる傾向にあるため、今後も効率的な維持管理を実施していく。

⑦「施設利用率」は、前年度と比べ減少したものの、類似団体平均より高い水準にある。

⑧「水洗化率」は、水洗化人口が増加したため上昇している。今後も、水洗化率100%を目指して下水道接続促進を続けていく。

2. 老朽化の状況について

③「管渠改善率」については、当市の下水道供用開始が平成9年であり、管渠も布設から約20年程度しか経過していないため、現在、管渠の更新は予定していない。ただし、経年劣化による施設等の修繕が今後見込まれるため、急激な費用が発生することがない様適切な維持管理に努め、費用の平準化を図る必要がある。

全体総括

水洗化率が徐々に向上し、今年度は経費回収率が全国平均を上回った。しかし、施設規模の小ささから、維持管理コストは増大の傾向にあり、経費回収率は低下していくことが予想される。また、今後は公共下水道への統合を見込んでいるため、料金体系、施設の整備・更新及び維持管理についても、統合を念頭に置いた見直しを図りたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。